

ニューヨーク小旅行

札幌市医師会
市立札幌病院

しみず さとこ
清水 聡子

新型コロナが5類に移行したので、ニューヨーク(New York, NY)へ長男と1週間の個人旅行に行きました。旅行好きで海外には60回以上行っている私ですが、なぜか世界の中心NYは未知の世界でした。現地のコロナ事情は心配でしたが、行けるときに行かないと次に何が起きかわからないと決断し、同僚も快く送り出してくれました。

NYでは観光名所巡りのほか、本場のゴスペル(礼拝音楽)を絶対に体験したかったので、教会の日曜礼拝に参加させてもらいました。手拍子を打ちながら礼拝を盛り上げる熱狂的な音楽(praise song)に続き、ジョークも交えた小スピーチを挟んで、参加者が手を挙げて神を讃えて歌うworship song、牧師の説教、と続きます。聴いているだけでも楽しいのですが、曲はシンプルで繰り返しが多く、不思議と口ずさめる曲もありました。途中、「隣の人と握手しましょう」という声かけがあり、隣に座った黒人のおばあさんとの握手は、自然と心温まる瞬間でした。また、予約して訪れたジャズクラブは、隣の人と肩が触れるほどの混雑ぶりで、本場のジャズに加え、音楽を好むもの同士として、現地の方のおしゃべりも弾み、忘れられない夜となりました。知る人ぞ知る前衛の体験型演劇“Sleep no more”では、5階建ての劇場全体が舞台となり、俳優を追って各階を移動しながら、無言劇とコンテンポラリーダンスを至近距離で楽しみました。1日ツアーで行ったペンシルバニアではアーミッシュ(特殊な教義に従い、18世紀移民当時の生活様式を守り、いまだに電気を使わず生活している宗教集団)の村を訪れ、深く知ることができたのも得がたい体験でした。

一方、繁華街のあちこちに漂う大麻の独特な香り、至る所に寝転がるホームレス、地下鉄の尿臭、幹線道路の中央に立つ麻薬中毒者の姿など、アメリカの陰鬱な一面が垣間見え、それが豪華絢爛なトランプタワーなどと対照をなしている光景は、アメリカの多様な側面が狭いマンハッタン島に凝縮されているように感じました。

刺激的な1週間でしたが、特ににおいの記憶は印象的で、オンラインでは決してえられない経験でした。摩訶不思議なNYをもっと知りたい、という気持ちでいっぱいですが、円安とNYの物価高が重なり、節約したのに予想外に高額な滞在費になってしまったので、当面再訪は難しいでしょう……。

母を看取る

北広島医師会
北海道北広島西高等学校

とだ ひろたか
戸田 博豊

歩けなくなったので車椅子、老人ホームで看取ってもらっていた。

妹から電話「お母さん、もう食べなくなったので、入院点滴させてください、とホームの人が言っている」「やめておけ、放っとけ、もうあの世に行くつもりなのだから」

早く帰らなきゃと思いつつ2週間程経った。

もう帰らないと!

間に合った。

唯、息をしているだけ。

今晚一晩もってくれ!明日連れ帰るから。

ありがたい。もってくれた。

家で寝かしたが、まだ下顎呼吸になっていないので妹を自宅に帰した。

その晩、私は酒を飲んで母の傍らで眠っていた。

長男が「お婆さん、息してないよ!」と。

9時頃だった。主治医に連絡して診てもらった。

診断書は、餓死でもない、老衰でもない。

過去の病歴から探し出してきた病名になっていた。点滴していなかったため、足の浮腫みもすっかり取れていた。

90歳。42回目の人生だった。地球ではベテラン。

破産して夜逃げもしたが、母はへっちゃらだった。大阪は田舎と違って働く所は幾らでもある。

生きて行き易い、と言っていた。

保険の外交員をして4人の子供を育てた。当時、貧乏であっても金が無くても国は大学まで卒業させてくれた。ありがたかった。

私がブラブラしていたとき、母は霊能者の所に行きに行った。

「この子は一体何になるのでしょうか?」「放っとけ!この子は自分で絵を画いていく」

その後、私が医者になってから話してくれた。弟が三浪でもう後がないときにも聞きに行った。

「この大学だけにしておけ。他は受けることならん」

通った。国立旧二期校。

その霊能者が亡くなった後にもまた、霊能者を探してきた。

他人の思っていることが分かる坊さんだった。心を見透かされるのでゾッとした。

私はまだ3回目の人生。地球ではまだペーペーだ。

まだ地球の生活には慣れてはいないので、学校には行きたくなかった。

他人付き合いは厭で苦勞してきた。今でいう発達障害。

周りを見たら、そういう子は結構多くいる。それを無理矢理学校に行かせようとするから不幸なことが起こる。

親殺し。子殺し。

「身を立て 名をあげ やよ励めよ」と、この世では活躍している人たちは皆、20回以上の転生を繰り返している。

一般に肉体が死んだら、あの世で30、40年は過ごすのが普通だが、母はもう7回忌の前に生まれ変わっている。

何かやるべきことがあるのだろう。後、9回程転生する、と。